



環境大レポート

第41号

Aug. 2024

K A N K Y O D A I R E P O R T



特集

2 3

環境大に吹く新しい風

新学長挨拶 理事長兼学長 小林 朋道
新学部長挨拶 環境学部長 張 漢賢 教授
新入生の声

キャンパストピックス
TUES Sustainability Weekを開催しました!

4

就職支援
就職進学実績

5

人事報告
着任挨拶

6

ESSAY
南極の海底堆積物とサンゴから読み解く地球環境変動 環境学部 徳田 悠希

7

教員著書紹介
アイデアをもたらす思考 -創造的認知を新製品・サービス開発に応用する-

7

国際交流
セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(米)との学生交流プログラムを実施しました
『外国人防災勉強会』を開催しました!

8

クラブ&サークル活動・資格取得
ヤギ部・交通研究同好会/資格取得

9

プロジェクト研究
鳥取県のお土産として何をお勧めしますか?

10

受賞・採択関係
環境学部 佐川 龍之 准教授が水路技術奨励賞を受賞しました
特許登録・出願について

キャンパスニュース
TUESレポートより

11

お知らせ
PRコーナー/主なスケジュール 2024年9月~2025年3月まで
2024年度 学部・大学院学位授与式/寄附金のお願い

12

新学長挨拶

自分を生かすことができる 多様な能力を育てる ことが重要だと考えます

こばやし ともみち
理事長兼学長 **小林 朋道**

1958年岡山県生まれ。岡山大学理学部卒業。京都大学で理学部博士取得。岡山県で高等学校に勤務後、2001年に鳥取環境大学(現:公立鳥取環境大学)開学時に着任し、環境学部長、大学院環境経営研究科長、理事兼副学長などを歴任して現在に至る。専門は動物行動学、進化心理学。



本学は2001年に「人と社会と自然との共生の実現に貢献する有為な人材の育成」を教育の基本理念として開学されました。私はその開学の年から本学で教鞭をとってきました。当時は、国連のサミットでミレニアム宣言が採択され、環境問題が人類の生存にとって大きな脅威として認識され関心が高まったころでした。そのころ、「環境」を大学名に入れた本学が誕生し、少なからぬ注目を浴びました。ただし、少なくとも日本では、そのころは、まだまだ環境問題を「自分事」として感じ行動を起こす機運は高くなかったと思います。

その後、温暖化による異常気象が日本でも増加し、熱中症や自然災害なども身近になり、最近では「行動を起こさなければ」と思う人々も増えてきました。「SDGs」や「持続可能な社会」といった、本学の理念と合致する言葉をよく耳にするのもそれを示しています。開学以来一貫して、環境問題の解決を目指すことを理念としてきた本学はいよいよ大きな責任をもつことになったと感じています。

「持続可能な社会」は、地方が経済的にも精神的にも元気になる必要があります。つまり並行して進む人口の首都圏集中と少子高齢化を、「豊かな自然資源や環境」「人と人との良好なつながり」などが揃っている地方で、生き甲斐感をもって暮らせる人々の増加という流れに変える必要があります。

本学は、そんな地方にある公立大学として、学生一人一人が、専門分野の知識や実践力はもちろん、急激に変化する社会の中で、変化に対応して自分を生かすことができる多様な能力を育てることが益々重要だと考えています。

学生たちはそれぞれ異なった特性をもっています。明確な目標をもっている学生、目標を模索している学生……。そんな学生たちに対して「街づくり協議会や企業などとの長期的教育的連携活動や、室内での実践的な演習などを通して、それぞれの興味関心、実践力などを伸ばす科目群と、そこで感じた課題解決に大きなヒントになる座学での学修の科目群を並行して走らせる」といった構造を土台にしたいと考えています。実践的な問題に接した学生たちは、環境や経営、情報処理等、各自の専門の垣根を超えた能力の必要性も感じ学びに向かってほしいのです。

最後に、少子化に伴う受験人口の減少などが進む中、全国の大学は受験者確保のための対策に苦しんでいます。本学も例外ではありません。

私は、若者の成長は、それが授業であれ自主的な行動であれ、各々の学生がもっている興味関心、希望、やりがい、面白さ、夢、といった形の違う様々な動機付けに押されて、行動し、失敗し、成功し、傷ついて休みまた立ち上がり、そんな経験の繰り返しの中で生まれてくるのだと思っています。それらの動機付けはひっくり返って「魅力」と呼ぶことができます。受験生となるz世代やa世代に近い、本学新入生を中心とした「大学魅力づくり委員会」という真面目だけど自由で創造性のある「会」をつくり大学づくりに参加してほしいと思っています。

こういったいろいろな取り組みの中では保護者の皆様方々にはお世話になることもあると思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新学部長挨拶



「原風景」という言葉があります。文学者たちの縦横無尽な創作力、繊細な描写力の源泉は、ここに内蔵している「原風景」に由来すると奥野健男氏が考えました(奥野健男、「文学における原風景」、集英社、1989)。この「原風景」は、「旅行者の眺める風土や風景ではなく、自己形成とからみあい血肉化した、深層意識ともいうべき風景」だといっています。奥野氏がある時、小学校の同窓会の住所録から、生まれ育った土地にずっと住み続けているのが自分だけと気づき、さらに調べたら文学者たちの多くがそれぞれ「ふるさと」をもち、「ふるさとをもっていない」江戸っ子でずっと東京にいる自分の存在を発見しました。この発見は、集合的記憶(疎開

みなさんの「原風景」を描いていきましょう

チョン ホンシャン
環境学部長 **張 漢賢** 教授

や都市への人口移動)との対比から獲得した個人的な経歴がありますが、文学創作の観点から、この固有的な体験、すなわち「風土性豊かな自己形成空間」から獲得した「原風景」がその創作力の核心部分であると奥野氏が指摘しました。

地域の風土、歴史、人々の生業・生活の営みはかたちとして現われ、景観を構成します。信仰、慣習といった社会的秩序も、日常的な風景を構成するものです。地域や都市、農村の景観に内包されているコンテクストを読み取る際、「原風景」の概念が用いられることがあります。奥野氏が創作と関連させて分析したものの、「原風景」は実際どなたも持っているものです。しかし、一般的にそれはしばしば聞かれなければ、自覚しないものであり、すなわち客体化しなければ認知さえされないものです。観光客が殺到し、SNSに美しい写真が撮られ、文化遺産登録する際に文章化され、ホストとして訪問客をおもてなしする際、初めて気付かされる場合もあります。田園風景は巡礼者により、農村風景は絵画を通して「発見」されたように、ふるさとに対して、ふるさとを離れて自分が別の眼差しを獲得した時、はじめてふるさとはどんな存在であるか気付く

ことがあります。時間が経つことにつれ、その存在がより洗練されたかたちとして表現できるようになることもあるのでしょうか。

原風景の発見は、生まれ育った場所に限るものではありません。同じ場所においても、世代別、体験、地域との関連性から、原風景が様々なかたちで現れます。ふるさとを離れ生活している学生たちにとって、意識的無意識的にかかわらず、生まれ育った場所を再認識しやすい環境にあると思います。同時に大学、地域に対して、将来どのような原風景が描き出せるか、それは地域へのかかわり方、日常生活の濃密さにかかわっているものだと思います。学生たちが、気付かせる側にいることも大切です。

— Profile —

京都大学工学部 建築学第二学科卒業、同大学院工学研究科 修士課程修了。日本及びマレーシアの建築関連会社勤務後、京都大学博士(工学)取得。2001年 鳥取環境大学環境情報学部助手を経て、2013年 同環境学部教授。公立鳥取環境大学国際交流センター長、同副学長補佐などを歴任し、2024年4月から公立鳥取環境大学 環境学部長に就任。

Student VOICE

入学して約4ヶ月、徐々に大学生活に慣れてきた1年生にインタビューしてみました!

- q.01 どんなクラブ・サークル・委員会に入りましたか?
- q.02 好きな授業、特に頑張りたい授業は?
- q.03 学内で好きな場所は?
- q.04 在学中にやってみたいことは?
- q.05 環境大生になって、率直にどうですか?

環境学部

- q.01 ダンス部、学祭実行委員
- q.02 環境学フィールド演習
- q.03 英語村
- q.04 留学(早速、この夏に大学のプログラムでアメリカに行きます)、教員免許取得
- q.05 高校の時とは授業時間や先生との距離感が違うので大変ですが、興味のあることが学べるのが嬉しいです。特にフィールド演習に魅力を感じて本学を受験したので、実際に受講するのが楽しみです。勉強以外にも異文化交流など毎日色々できて楽しいです!



山本 彩耶さん
(広島県出身)

- q.01 (二人とも)バドミントン
- q.02 (二人とも)環境学フィールド演習(解)化学(胡)植物学概論
- q.03 (解)図書館(胡)国際交流センター
- q.04 (解)海洋汚染に関する勉強、韓国語(胡)色々な国の友人をつくる
- q.05 (解)登山が好きなので、山に囲まれた環境にいられるのが嬉しいです。日本語での授業が難しいこともありますが、しっかり頑張りたいです。(胡)最初は慣れなかったけど、留学生サポーターや国際交流センターのサポートのおかげで随分慣れてきました。この大学の静かで落ち着いた環境が気に入っています。



カイ メイカン コウジン
解 茗涵さん 胡 直人さん
(中国出身) (中国出身)

経営学部

- q.01 音創部、天文部、EMS委員会
- q.02 地理学入門、簿記
- q.03 情報メディアセンター前の屋外ベンチ(そこから見渡す景色がいい!)
- q.04 FP検定などの資格取得、自主制作CDを出す
- q.05 都会にない良さを感じています。なにより自然が近いのが良いし、実際に地域にいたので地域課題に触れる際に説得力があります。有意義な時間を過ごしています!



亀山 海晴さん
(岡山県出身)

- q.01 箏曲部、地域交流部
- q.02 簿記
- q.03 学食(お昼によく行きます!)
- q.04 地域の人との交流
- q.05 大学生活は高校までと大きく違って大変だけど、自分で決めて自分で行動するのは楽しいです。部活で行ったボランティアも良かったです。色々な場面で地域の人と交流できるのが魅力的です。



山口 仁愛さん
(広島県出身)



TUES Sustainability Week を開催しました!

令和6年7月1日(月)から5日(金)までの間、TUES Sustainability Weekを開催しました。

今年度は、テーマを「芽生え」と題し、脱炭素を起点に、地域・大学の持続可能性・環境について考え、学生・教職員の参画を得ながら生き物のように変化するイベントとして、学生EMS委員会が主体となって開催しました。

開催中は、Sustainability Talks、パネル展示、古着古本市など様々な取組が行われ、「脱炭素」、「持続可能性」について考える機会となりました。

★ Sustainability Talksでは、大学・地域で持続可能性に関する取り組みを行う学生・教職員・行政・民間の方による、20分程度のトークを繰り広げ、積極的な意見交換が行われました。

〈 Sustainability Talks 〉

	生物多様性 月(7/1)	交通 火(7/2)	脱炭素 水(7/3)	大学の魅力 木(7/4)	循環 金(7/5)
1 L M	「環大に生物のオアシス?! ～ピオトープを作る意義～」 TUES地球環境を考える会 倉田 隆成	「共助で支える公共交通 『コミュニティ・ドライブ・シェア』 ってなに!？」 鳥取県交通政策課 野坂 明正 課長	「脱炭素社会の実現に 向けてTRY!」 鳥取県脱炭素社会推進課 山本 尚生 係長	「なぜ、世界は持続可能に ならないのか」 環境学部 荒田 鉄二 教授	「日本製紙グループの循環型 ビジネスモデルおよび鳥取環境 大学様との取り組みについて」 日本紙通商株式会社
2 L M	「地域で実践的な保全やってみた! ～環境保全における 地域連携の重要性～」 MIZUNOBA 岩田 陽希	「シェアする公共交通『とりモビ』 を走らせる狙い 鳥取市交通政策課 宮谷 卓志 課長	「大学の脱炭素化に向けた取組、 課題～2023年度CO2排出実績から～」 研究交流推進課 SDGsコーディネーター 吉田 道生	「これからのTUES」 小林朋道 学長	「ゴミ分別革命☆」 堀ゼミ 小野寧久・中平志乃
3 L M	「水圏における 生物多様性と食文化」 環境学部 太田 太郎 准教授	「実証実験で見えてきた 自動運転バスの可能性」 鳥取市交通政策課 宮谷 卓志 課長	「『脱炭素社会構築の課題2』 ～原子力発電の課題～」 環境学部 田島 正喜 教授	「大学のミライを語ってみる」	「マイボトルのある生活 #せっかく環大にきたんだから」 学生EMS委員会 小林 碧志
4 L M					「ごみを気にせず裸足で 走れる海へ」 青谷高校 ソーシャルアクション同好会

鳥取市交通政策課の宮谷課長による、公共交通を取り巻く環境・課題や、「とりモビ」(AI・オンデマンド乗合交通)の実証実験に関するトークでは、商業と交通を組み合わせることで、移動の機会を増やし、公共交通と地域コミュニティを連携させることなどについて、紹介がありました。



気候変動問題、脱炭素に向けた取り組みについて、鳥取県脱炭素社会推進課の山本係長、本学の吉田SDGsコーディネーター、環境学部 田島 教授が登場し、参加者とディスカッションを行いました。



古着・古本市では多くの皆さんにご協力いただきました!



図書館では手作りのしおりや関連図書の展示を行いました。



脱炭素、資源循環、自然環境保全などに関するパネル展示





就職・進学実績

2023年度卒業生の就職・進学実績を紹介します。

就職内定率

99.2%

環境学部

内定者数 110名 / 就職希望者数 110名

100%

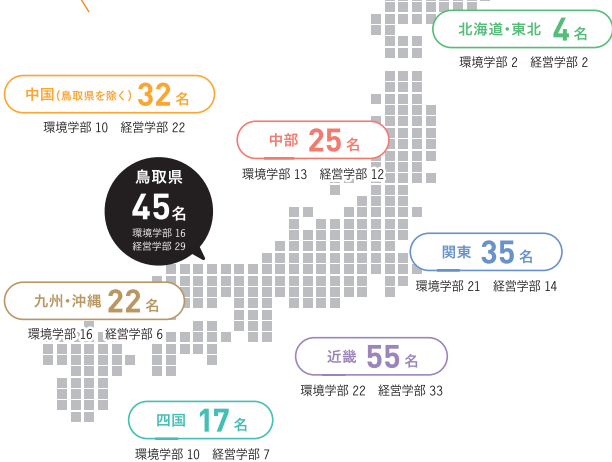
経営学部

内定者数 125名 / 就職希望者数 127名

98.4%

地域別就職内定者数

※地域は就職内定先の勤務予定地



卒業生からのメッセージ

はぎわら りくと
環境学部 萩原 陸斗 さん

2020年度卒業生(神奈川県出身)

就職先: 東日本電信電話株式会社
(NTT東日本)



「皆さん、挑戦してますか?」よく言われるセリフだと思います。正直、挑戦できる人は1%にも満たないと思います。良い挑戦をするために、私は2つのことを考えればいいと思います。
1つ目、信頼できるジャンルが違う大人を3人作りましょう。ビジネス経験がない分、危ないビジネスへの勧誘もあるため、専門領域の違う大人の意見を総合的に聞き判断しましょう。
2つ目、周りの見え方を気にしない努力をしましょう。特に鳥取は狭い場所なので、すぐに噂になります。それは挑戦する人への嫉妬心や憧れからくるものがほとんどなので、気にせず全力で挑戦しましょう。後悔ない人生になることを祈ってます。

環境学部

就職・進学先一覧(2023年度卒業生)

【一般企業】《農業・林業》ひよこカンパニー《建設業》ウッズカンパニー、AQ Group、グリーンライフ産業、大成温調、タケウチ、千代田工務店、戸田道路、TOTOアクアエンジニア、福田造園土木、フソウ、ヤマタホールディングス、ユニバーサル園芸社《製造業》岩谷瓦斯、大島造船所、北四国グラフィック印刷、三和シャッター工業、長門牧場、日本植生、ヒューテック、深江化成、豊生ブレーキ工業、北海道フーズ、マルヤナギ小倉屋、銘建工業、ロマンライフ《電気・ガス・熱供給・水道業》NTTアノドエナジー、大分ガス、九州電力《情報通信業》大京システム開発、鳥取県情報センター、日本テクノストラクチャア、富士ソフト、MA HOFILM、南日本情報処理センター《運輸業・郵便業》中国日本航空、北海道旅客鉄道《卸売業・小売業》アイ・ティエ・エックス、アビ、エース、キタムラ、クックチャムプラスシー、コネクシオ、シマフンコーポレーション、セビア、ゾフ、武田メガネ、西日本フード、明屋書店、日比谷花壇、VHリテールサービス、ベクトル、矢崎総業、山善、ライド《金融業・保険業》あいおいニッセイ同和損害保険、阿波銀行、山陰合同銀行、鳥取銀行《不動産業・物品賃貸業》関西不動産販売、三交不動産《学術研究・専門・技術サービス業》NJS、鹿児島土木設計、九州シビル、太平洋エンジニアリング、ノースサンド、三井開発《宿泊業・飲食サービス業》メトロプロパティーズ《教育・学習支援業》東京動物園協会《医療・福祉》ケアサービス、鳥取県保健事業団、労働者健康安全機構《複合サービス事業》あいち海部農業協同組合、全国農業協同組合連合会、西日本信用漁業協同組合連合会、晴れの国岡山農業協同組合《サービス業(他に分類されないもの)》ABC Cooking Studio、加山興業、環境管理センター、クリタス、白川郷自然共生フォーラム、wingAM、月島テクノメンテサービス、東洋ワークセキュリティ、パーソルクロステクノロジー

【公務員】農林水産省(水産庁)、兵庫労働局、石川県、滋賀県、鳥取県、島根県、山口県、山口県警察本部、猪名川町

【教員】石川県、徳島県、鳥取県

【大学院進学】京都大学、名古屋大学、大阪教育大学、愛媛大学、九州大学、公立鳥取環境大学、福岡工業大学

※正規雇用のみ記載 / 企業名は業種別50音順 / 株式会社等省略



経営学部

就職・進学先一覧(2023年度卒業生)

【一般企業】《建設業》大本組、JAPAN HOME WAND、千代田工務店、ナガワ、ネクストイノベーション《製造業》アマダプレスシステム、エフピコ、エンプラス、大塚包装工業、寿製菓、三相電機、JMAX、シャトレゼ、ショーワグループ、ナベプロセス、日立ハイテクサイエンス、ホワイトフーズ、マルサンアイ鳥取、渡辺鉄工《電気・ガス・熱供給・水道業》大ーガス《情報通信業》EMD、NCDソリューションズ、エヌ・デーソフトウェア、倉敷ケーブルテレビ、ケイズ、コベルコソフトサービス、コンピュータサイエンス、システムズナカシマ、島根情報処理センター、セイノー情報サービス、セリオ、帝国データバンク、テクノスジャパン、ニッセイコム、日本海テレビジョン放送、ノバシステム、日立ソリューションズ西日本、三井情報《情報通信業》西日本旅客鉄道、日本郵便《卸売業・小売業》いーふらん、ACN、エフティコミュニケーションズ、エヌ・エス・ビー、京都トヨペット、ゴダイ、ゴールドトレーディング、三菱オプティ、山陰酸素工業、サンキ、山陽自動車、島根トヨタグループ、昭和、Joshin、スズキ自販鳥取、生活協同組合コープこうべ、大五、大黒天物産、田中商事、デジアラホールディングス、鳥取マツダ、日本アクセス、ヒラタ、福岡商事、FUTAEDA、マルト、モリックスジャパン、UACJトレーディング、ラルフローレン《金融業・保険業》エヌケーシー、共栄火災海上保険、近畿労働金庫、山陰合同銀行、大山日丸証券、中国銀行、中国労働金庫、鳥取県信用保証協会、鳥取銀行、鳥取信用金庫、西兵庫信用金庫、広島銀行、広島信用金庫、福井銀行、みずほフィナンシャルグループ、みなと銀行、山口フィナンシャルグループ《不動産業・物品賃貸業》穴吹興産、イデアハウス、エラン、トヨタレンタリース鳥取、西尾レントオール、日商エステム、長谷工アーベスト、ライフアシスト《学術研究・専門・技術サービス業》鵬技術コンサルタント、サンテラス、識学、ディップ、中尾総合事務所、長谷川会計事務所、ひたち野総合《生活関連サービス業、娯楽業》カープスホールディングス、ハウステンボス《複合サービス事業》全国農業協同組合連合会《サービス業(他に分類されないもの)》アースサポート、エルフラット、JPツーウェイコンタクト、セコム、ダイヤモンド・ヒューマンリソース、平山、ワールドインテック

【公務員】防衛省航空自衛隊、兵庫県、鳥取県警察本部、島根県、桑名市、福知山市、鳥取市、丸亀市、賀頭町

【大学院進学】横浜国立大学、島根大学

※正規雇用のみ記載 / 企業名は業種別50音順 / 株式会社等省略





着 | 任 | 挨 | 拶 | 4名の教員が着任いたしました。



2024年4月に環境学部に着任いたしました。

本学では「エコハウス計画」「居住インテリア計画」「福祉住環境計画」の講義を担当します。専門は建築計画、建築ユニバーサルデザインです。人生100年時代の今、仮に病気や事故でからだに不自由になっても、仕事をし、余暇を楽しむ「かわらない生活」を送ること、そしてそれを可能にする「住み続けることができる環境」が求められます。その実現に少しでも貢献できるよう、私の研究室では「多様性を受容する都市・建築空間の提案」を目的とし、多様な人の身体特性や日常生活の問題点、心理的負担等を把握する研究を基本に、誰にとっても公平に「選択肢のある利用環境」や「素敵だと感じるデザイン」を創出する研究活動を行っています。これからはこの鳥取で、学生たちと一緒に地域貢献につながる教育・研究活動をしていきたいと思っています。

環境学部 **老田 智美** 准教授



2024年4月に環境学部に着任いたしました。

中大型哺乳類、特に霊長類の採食生態学や行動学を専門としております。本学では、「動物行動学」、「保全生物学」などの講義を担当します。これまでは、山のなかでニホンザルを追跡し、サルのアカンボウが誰と何を食べるのか、アカンボウが共に食べる相手に地域差があるのか、生息環境がサルの社会性に影響を与えるのか、というようなことをテーマに研究をしてきました。鳥取県の森林には多くの野生動物が生息しており、動物学者にとって大変魅力的なフィールドです。一方で、野生動物による農林業被害も報告されています。私の研究室では、野生動物の生態・行動の調査を行い動物目線で彼らの世界を探究するとともに、よりよい野生動物と人間の共存のありかたを考えていきたいと思っています。

環境学部 **谷口 晴香** 講師



2024年4月に経営学部に着任いたしました。

本学では「非営利組織論」「地域政策論」「公共経営論」などの講義を担当します。

私はこれまで留学を含めて4つの大学に通い、4つの行政機関に勤務したことがあります。2021年から大学の教員になり、前任校は東北地方でした。この間に10回以上の転居をしています。

これからは、地方を支えている様々な組織がどのように経営されているかを研究していきたいと考えています。例えば、各地域の消防団や区長さんの役割などです。日本各地から集まっている学生たちとともに、調査・研究することができれば幸いです。

このような経験と研究の成果で、本学並びに鳥取の発展に貢献したいと考えているので、どうぞよろしくお願いたします。

経営学部 **下境 芳典** 准教授



2024年4月に経営学部に着任いたしました。

専門は環境経済学で、選択型実験などの経済学的手法を用いた調査・研究を行っています。現在、再生可能エネルギーに対する社会的受容性や人々の嗜好を評価する研究に注力しており、特に洋上風力発電が開始、検討されている地域に焦点を当てています。私の研究室では、再生可能エネルギーに纏わる様々な課題に取り組み、環境評価手法や計量経済学的手法を使用しながら解決の糸口を探求していきます。またエネルギー問題にとどまらず、森林などの自然資本や生態系サービスに関わる研究も進めていく予定です。意欲的な学生たちと共に研究を通して成長していけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。

経営学部 **岩田 健吾** 特任講師



南極の海底堆積物と サンゴから読み解く 地球環境変動



環境学部

徳田悠希 准教授

専門分野：古生物学・深海生物学



南極大陸の上には地球上の氷の約90%があります。現在その氷の急速な融解が生じており、それによる海面上昇が心配されています。近年、南極沿岸の海に入り込んだ暖かい海水が、その融解の原因であることが分かりました。しかし、それらがいつごろから入り込み氷を溶かしているのか、ほとんど明らかになっていません。この謎を解き明かすため、私は第65次南極地域観測隊に参加し、南極で4か月間の海洋観測に行ってきました。私たちが注目しているのは、過去の海洋環境が記録さ

れている南極の海底堆積物と、その海底上に生息する生物たちです。今回の観測では、昭和基地がある東南極のリュソフ・ホルム湾などで、氷の海を航行できる南極観測船しらせを用いてそれらの採取に挑みました。海底の堆積物は、グラビティコアラーと呼ばれる、重量500kg、長さ5mの金属製の筒を海底に打ち込み採取しました。これから分析を進め、過去2万年間の南極の環境変動を堆積物から読み解きます。

私の専門はサンゴですが、実は南極に

も数多くのサンゴが生息しています。今回、小型潜水艇(ROV)とビームトロール(底引き網)により、南極に生息するサンゴを数多く採集できました。南極など冷たい海に生きているサンゴは、100年以上の寿命をもつと言われています。その骨格を化学分析すると、堆積物の分析では難しい、過去数百年間の水温変化を正確に見積もることができます。今後は、採取したサンゴ骨格を分析することで、現在の地球温暖化が南極氷床の融解に、どのような影響を与えているのかを調べる予定です。よい研究成果を出せるよう、これから頑張りますので応援よろしくお願いします。



▲南極の深海に生息するイシサンゴ(ROVで撮影)



▲グラビティコアラー



▲昭和基地周辺のアデリーペンギン



教員著書紹介

本学では、学術振興に居るとともに、研究成果を広く社会に発信し、還元することを目的として、本学教員の出版に助成を行っています。2023年度に出版助成を受けた著書が刊行されておりますので是非ご一読ください。

磯野 誠
Makoto Isono
高橋佳代
Kaede Takahashi
島田善道
Yoshihiko Shimada

アイデアをもたらず思考 創造的認知を新製品・サービス開発へ応用する

ナカニシヤ出版

アイデアをもたらず思考

—創造的認知を新製品・サービス開発に応用する—

磯野 誠 教授【経営学部】

島田 善道 准教授【大阪学院大学 経営学部 ※2024年3月まで本学 経営学部】

高橋 佳代 准教授【鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科】

新製品・サービス開発においてアイデアはいかに創出されるべきかについて、創造性に関わる認知心理学研究や組織論の知見を応用して検討したものです。

イノベーションにつながるようなアイデアを創出するために、どのように知識を集め思考すればよいのか、どのように未来を想像すればよいのか、どのように組織の多様性を扱えばよいのか、などの問題に、実験やインタビュー調査を通してその答えを導いています。

企業などでアイデア開発に携わる実務家、この分野を研究する研究者にぜひお手に取っていただければ幸いです。

〈書誌データ〉

出版社：ナカニシヤ出版

発売日：2024/2/28

言語：日本語

単行本：208ページ

ISBN：978-4-7795-1798-3





国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。

[詳しくはこちら!](#)



セントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(米)との学生交流プログラムを実施しました

本学は、カンザス州のセントラルクリスチャンカレッジオブカンザス(Central Christian College of Kansas ※CCCK)と、学生交流と異文化体験を主とした相互派遣方式のプログラムの編入学協定を結んでいます。今年度は、令和6年5月27日(月)から6月10日(月)まで、CCCKから1名の学生が来学し、初めての受入れプログラムを行いました。

プログラム期間中、受入学生は、本学の日本語特別講義を受講するとともに、英語村でアクティビティやチャットへの参加を通して、本学学生との交流を深めました。また、日本文化体験の一環として、本学茶道部の学生による指導のもとで茶道の体験や、書道体験、鹿野町でのそば打ちにも挑戦したほか、鳥取城北高等学校の男子相撲部・女子相撲部の皆様のご協力をいただき、相撲稽古の見学なども行いました。また、鳥取でのホームステイを通して、日本の家庭のライフスタイルを体験しました。

約2週間のプログラムを終えた受入学生のプログラム体験記には、『日本語や日本文化を学べてとても良い経験になりました。また、たくさんのTUESの学生と交流できて楽しかったです。』とあり、充実した滞在となったようです。



▲皆の前で自国について発表しました



▲茶道部の学生に教えてもらいながら、初めての茶道体験



▲皆で書道体験



▲英語村で、楽しくアクティビティ!

『外国人防災勉強会』を開催しました!

近年、全国各地で大規模な地震や台風などの自然災害が頻発していることを踏まえ、(公財)鳥取県国際交流財団、鳥取市、鳥取県、そして鳥取消防署の協力のもと、本学の留学生を対象に、不安意識の払拭や基本的な防災の理解促進を目的とした防災勉強会を開催しました。

開会に先立ち、西村国際交流センター長より、「災害は、“いつ”、“どこで”起こるか分からない。災害に直面した場合には、自分で正しい情報を確認し、命を守る行動ができるよう備えて欲しい。」という挨拶があった後、鳥取消防署の指導の下、消火器を活用した消火訓練を行いました。消火器に初めて触る留学生も多い中、「火事だ!」と声を出して消火器を使用する等、実際に火事が発生した場合を想定した訓練を行いました。

その後、会場を移動し、鳥取市危機管理課より防災マップや防災アプリを活用した災害発生時の行動について等、防災講座を受講し、日本語以外の他言語でもアプリの通知設定が可能なことや、開設されている避難所の情報を得る方法等について解説を受け、日ごろからの災害時の備えの必要性について学びました。

また、講座の後は、鳥取県国際交流財団が作成した「防災かるた」を活用し、留学生サポーターの学生達と一緒に、かるたで防災の基本について楽しく学びました。

参加した留学生からは、「消火器の使い方を初めて体験した。」「ゲームを通して、色々な状況下でどのように対応したら良いかを知ることができ、勉強になった。」といった感想が聞かれ、災害時の備えや、災害発生時に正しい情報を得ることの重要性について改めて学ぶ機会となりました。



▲初の外国人防災勉強会を開催



▲防災アプリについて受講中



▲「火事だー!」と周りに注意喚起!



▲防災かるたで遊びながら防災の基本を学びます



▲当日は消防車とトリピーもやってきました!



ヤギ部

ヤギ部は現在5匹(コムギ・アズキ・キナコ・チャー・ゲラ)のヤギたちと共に活動しています。チャーとゲラは今年の4月に大学に来たばかりでまだ不慣れなところがありますが、毎日楽しくやっております。どのヤギも良い性格をしていて、魅力的で、沼ります。

現在の活動としては、学校の顔であるヤギたちが元気に伸び伸びと暮らせるように部員が交代交代で毎日掃除や餌やりなどを行っています。そのおかげか、ヤギを飼っている方から“毛並が良いね”と言われるます!!また、大学から写真提供の依頼を受け、部員たちが撮影したヤギたちの画像を提供させていただいています。

今年度からはコロナの影響で中断してしまった地域の方々との交流を徐々に増やしていきたいと考えています。また、他サークルと共同活動もしていきたいと考えています。

部長:小川 瑠月 (環境学部 3年)



交通研究同好会

私たち交通研究同好会は、学生の立場から地域に広がる公共交通の現状が抱える問題について研究し、公共交通の一番の利用者である地域住民に知ってもらうことを目的として昨年より活動しています。

本年度は、サステナビリティ研究所の一室をお借りしてNゲージを使用した鉄道模型のジオラマを作成しています。レトロ・新交通・手芸・自然・地理といった部員の関心を各所に盛り込んでいるので、面白いジオラマが出来るのではないかと思います。

地域の方と意見を交換する場を設けるには、親しみやすいきっかけを作ることが必要であると考えています。このジオラマを通じて地域内イベントに参加したり、大学内で展示会を開き、地域の親子連れを大学に招いたりするなど活用していけたらと考えています。

部長:竹村 和晃 (経営学部 4年)

資格取得



環境学部 2年生(沖縄県出身)
新垣 つゆき さん

TOEIC IP L&R B2
(高得点:875点)

取り組んだきっかけは、元々英語が好きだったのと就職で有利になると思ったので挑戦しました。高得点を目指していたため、苦手なところを克服するために単語と文法に焦点を当て勉強に励みました。単語は一日何個覚えるか決めて隙間時間に暗記し、文法は本を読んで内容理解に取り組みました。試験前の二週間はひたすら過去問を時間内に解くことを意識して解きました。次は900点越えを目指して、英語の勉強を継続していきたいと思っています。



経営学部 3年生(山口県出身)
橋本 小雪 さん

簿記2級

合格!

簿記2級を取得したいと思ったのは、資格の勉強を通じて簿記に興味を持ったためです。1年次に初めて簿記に触れ、仕訳の楽しさを知りました。それ以降、簿記の知識を深めることに興味を持ち、2年次の夏に簿記2級を取得しました。勉強をしていると、好きなものでも勉強が辛い時もあると思います。そんな時は、気分をリフレッシュさせた後、「過去には戻れない。今始めるのが、一番早い!」と思うようにしています。



プロジェクト名

鳥取県のお土産として何をお勧めしますか？



▲「二十世紀梨ゼリー 感動です。」の器

本プロジェクトでは、鳥取県のお土産品に着目し、様々な角度からアプローチして新たな発見を行うとともに、その商品等の魅力を掘り下げることで、発表を聞いた人にこの商品を買ってみたいと思わせるようなプレゼンテーションを作成することを目指しています。このテーマは、鳥取県出身の学生には身近すぎてあまり関心を持っていなかったモノについて深く探求すること、県外出身者にとっては、鳥取県の魅力の一つとしてのお土産品について関心を持ってもらうことを意図して設定しました。

学生たちを3つのグループに分け、どのお土産品を対象とするのか話し合ってもらった結果、A班は「打吹公園団子」、B班は「二十世紀梨ゼリー 感動です。」、C班は「因幡の白うさぎ」を取りあげることとなりました。その後は、学生たちの自主性に任せ、グループワークを行うことでプロジェクトに取り組んでいます。



▲グループワークの様子

6月13日に実施した第9回講義では、各グループの中間発表が行われ、地元産の原材料へのこだわりや名探偵コナンを代表とする多様な媒体とのコラボ商品の展開、食べた後の器も利用されていることや商品名にまつわる意外な人物、学生の間での知名度や製造している企業の様々な地域貢献への取り組みなど、それぞれのグループがこれまでの研究成果に関する報告を行いました。

今後は、最終発表会での報告に向けて、中間発表の際に指摘された部分の補足や中間発表時点では整理されていなかった研究成果のまとめ、新たな情報収集等を行い、より良いプレゼンテーションの作成に向けて、取り組んでいきます。

プロジェクトアドバイザー 経営学部 山口 和宏 准教授

プロジェクトメンバー プロジェクト研究1 〈環境学部〉1年:香川 由依、栗原 隆行、樋開 真子、古家 悠希
〈経営学部〉1年:有本 咲良、岡本 歩、中井 紬、山平 はるか

プロジェクト研究3 〈環境学部〉2年:井上 華菜女、恵京 花音、下村 時朗、高芝 航太郎
〈経営学部〉2年:石井 恵大、大平 琉生、藤本 悠希、松本 彩加

環境学部 佐川 龍之 准教授が水路技術奨励賞を受賞しました

2024年3月18日に、環境学部 佐川 龍之 准教授が、一般財団法人日本水路協会より「令和5年度水路技術奨励賞」を受賞しました。同賞は水路技術者の研究開発意欲を振興し、我が国の水路技術の進歩・発展に寄与することを目的として、毎年優れた業績を残した技術者・研究者に贈られます。

【受賞題目】 「多時期の衛星画像と機械学習を用いた浅海域の水深推定技術の高度化」



特許登録・出願について

以下のとおり、本学の研究による3件の発明が特許登録され、さらに1件が特許出願中です。(令和6年8月28日現在)

特許取得済み

【1.ゴムの分離方法】

廃ゴムリサイクルのためのゴム分解菌処理後の効率的粒状ゴム分離技術の開発

特許権者: 公立大学法人公立鳥取環境大学
発明者: 環境学部 佐藤 伸 准教授、濱田 賢作 氏
(元、佐藤 准教授雇用の研究員)

特許番号: 特許第7278625号
出願日: 令和3年1月6日
登録日: 令和5年5月12日

【2.ゴムの分解方法】

不飽和脂肪酸によるカーボンブラック含有加硫ゴムの軟化技術

特許権者: 公立大学法人公立鳥取環境大学
発明者: 環境学部 佐藤 伸 准教授
(単独発明)

特許番号: 特許第7283797号
出願日: 令和3年10月1日
登録日: 令和5年5月22日

【3.軟化ゴムの製造方法】

不飽和脂肪酸+リナロール+ゴム分解キノコ分泌液による加硫ゴムの軟化技術

特許権者: 公立大学法人公立鳥取環境大学
発明者: 環境学部 佐藤 伸 准教授
(単独発明)

特許番号: 特許第7250379号
出願日: 令和4年3月14日
登録日: 令和5年3月24日

※印刷した冊子に以下の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

(誤)【3.ゴムの分解方法】
(正)【3.軟化ゴムの製造方法】
(誤)不飽和脂肪酸+リナロール+加硫ゴムの軟化
(正)不飽和脂肪酸+リナロール+加硫ゴムの軟化技術

特許出願中

【4.リモネンによるゴムの軟化方法】

リモネン+酸混合液による加硫ゴムの膨潤がもたらす再資源化効率向上技術

特許権者: 公立大学法人公立鳥取環境大学
発明者: 環境学部 佐藤 伸 准教授
(単独発明)

特許番号: 特許出願中
出願日: 令和6年5月2日
登録日: 特許出願中



本学学生と企業によるSDGs共創プロジェクトが始動!

SDGs共創プロジェクトとは?

本学の学生が、教員の指導の下、SDGs経営に取り組み県内事業者の環境問題の解決に取り組むものです。2021年度からSDGs連携事業として本学と鳥取商工会議所工業部会が連携して取り組んできましたが、今年度から鳥取県も加わり、対象事業者は全県に広がりました。

5月、キックオフイベントを実施!

5月8日(水)、本学、鳥取商工会議所工業部会、鳥取県の3者が連携し、SDGs共創プロジェクトのキックオフイベントをとりぎん文化会館で行いました。当日は、事業者が課題の背景や内容を説明し、本学の学生がその解決に向けて今年度行う研究活動の方針を説明しました。学生と企業が連携して進める各調査・研究については、年度末に成果報告を行います。



▲小林学長のあいさつ



▲学生の発表

◆ 事業者の課題及び本学の担当学生等

事業者名	調査研究のテーマ・プロジェクト内容	本学の担当学生・教員
美保テクノス(株)	建設業におけるCO2排出量算出モデルの構築 → 工事現場のCO2排出量を算定するツール開発	・門木ゼミ生 ・環境学部 門木 秀幸 准教授
大同端子製造(株)	AIを活用した工場内の電力消費量の可視化 → AIを用いた電力消費の予測・可視化の研究	・堀ゼミ生 ・人間形成教育センター 堀 磨伊也 准教授
(一社)日本ドローン海岸漂着ごみ回収事業推進協会	衛星データとドローンによる海岸漂着ごみ対策 → 衛星データを活用したごみ漂着場所特定の研究	・佐川ゼミ生 ・環境学部 佐川 龍之 准教授
(株)アサヒメッキ	メッキ排水の再生利用技術 → 排水中の油分除去の最適な処理条件の検証	・門木ゼミ生 ・環境学部 門木 秀幸 准教授
(株)エコ・ファーム鳥取	100%天然由来 刈草堆肥のブランド化・販路開拓 → 消臭剤開発や屋上緑化への活用などの検討	・学生EMS委員会 ・経営学部 山口 和宏 准教授
菌興椎茸協同組合	生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発 → 生分解性材料を用いた保護蓋の開発の研究	・金ゼミ生 ・環境学部 金 相烈 教授 ・門木ゼミ生 ・環境学部 門木 秀幸 准教授

環境基本方針を改定しました

本学は、環境マネジメントシステム(ISO14001:2015)に基づき、理事長が環境方針を定め、環境負荷の低減に向けた取組を推進しています。



昨年度本学は、環境省から認定された鳥取市脱炭素先行地域に共同提案者として参画し、国連のCO2削減キャンペーンRace to Zeroに参加するなど、脱炭素に向けて本格的に取組を始めました。

このような状況を踏まえ、6月1日付けで「本学及び地域の脱炭素化に向けた取組を推進する」ことを明記した環境方針に改定しました。

今後は、新たな環境方針に基づき、学生、教職員一人一人が、脱炭素を含め、これまで以上に環境に配慮した行動を行います。

寄付のお礼

鳥取県内JA(JAいなば、JA鳥取中央、JA鳥取西部)とJA共済連鳥取の皆様より学生支援の「星空舞」を寄贈いただきました



株式会社JVCケンウッド様より光触媒除菌脱臭機を寄贈いただきました



そのほかのニュースはこちらからご覧いただけます

<https://www.kankyo-u.ac.jp/tuesreport/2024nendo/>



詳しくは各お問い合わせ先へご連絡ください

大学祭



第24回 環謝祭 (大学祭)

Bloom 開化～若き盛りで広げる景色～

アーティストによるコンサートや芸能人によるトークショー、参加団体による出店やユニークなパフォーマンスステージなども企画しています。

- 日程：2024年10月26日(土)・27日(日)
- 会場：公立鳥取環境大学

お問い合わせ 大学祭実行委員会

E-mail gakusai@kankyo-u.ac.jp
HP <https://r.goope.jp/kansyasai21>

公開講座



公開講座2024

本学では一般の方を対象とした公開講座を実施しています。オンデマンド動画配信もありますので、ぜひご視聴ください。(動画は随時更新中)

- 講座情報や動画視聴はこちらからお申し込みフォーム

公立鳥取環境大学 公開講座

<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/alliance/seminar/>

お問い合わせ 研究交流推進課

TEL 0857-38-6704
E-mail event@kankyo-u.ac.jp

KANラジ 動画配信中

環境大から、あなたへ!

知識は宝だ! 環境大の気軽に学べるラジオ

KANラジ

KANラジとは?

本学の教員が自身の専門分野や研究についてラジオパーソナリティとトークを展開する、気軽に学べるラジオ番組です。

FM鳥取で放送されたKANラジの収録風景を本学公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

今年度も、身近な社会の課題から自然界の不思議まで、様々なテーマで公開予定です。本学教員の、普段なかなか聞くことのできない話をぜひご視聴ください!

KANラジ再生リスト



主なスケジュール (2024年9月から2025年3月まで)

9/30~10/2	後期ガイダンス	学務課
9/30~10/2	履修登録期間	学務課
10/3~10/9	履修科目変更期間	学務課
10/25	月曜日の授業日/午後休講	学務課
10/26~10/27	環謝祭	学務課
10/28	月曜日の授業日/午前休講	学務課
11/9	保護者懇談会	学務課
12/29~1/3	事務取扱休業	総務課
1/17	大学入学共通テスト前日準備(全日休講)	入試広報課
1/21	プロジェクト研究発表会	学務課
2/3~2/7	後期試験	学務課
2/13~2/14	後期追試験	学務課
3/19	学位授与式	総務課

*スケジュールは変更になる場合があります。変更がある場合は本学ホームページに掲載します。

2024年度 学部・大学院 学位授与式

2024年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を左記の通り執り行います。開催日が近づきましたら、詳細をホームページでお知らせしますので、ご確認の上、ご出席ください。

- 【日時】2025年3月19日(水)
10:00 / 開 式
(9:30受付開始/12:30終了予定)
- 【会場】とりぎん文化会館梨花ホール
(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

お問い合わせ先
公立鳥取環境大学総務課
TEL:0857-38-6700

寄附金のお願い



学生支援及び教育環境の充実を目的として「公立鳥取環境大学基金」を設立しました。皆様から頂いたお志を財源とし、修学援助など学生の生活や教育活動への支援及び教育研究施設・設備等の整備に活用させていただきます。 ※1口1,000円からのご寄附をお願いしています。

- 詳細はこちらから
<https://www.kankyo-u.ac.jp/about/donation/>



お問い合わせ 総務課財務係

TEL 0857-38-6705
E-mail zaimu@kankyo-u.ac.jp

お知らせや ニュースを発信中!

公立鳥取環境大学 公式SNS



@kankyo_U (旧ツイッター)



@kankyo-u



公立鳥取環境大学 公式チャンネル

